

令和7年度 村松小学校 学力向上プラン

【児童の実態】

令和7年度学力調査

- 《質問紙》
- ・「夢や目標を持っている」と回答した割合が高い。
 - ・地域に愛着をもつ児童が多い。
- 《共通》
- ・4年から6年は、全国・県・市の平均を下回っている。
 - ・問題の意図を正確に読み取れない。
 - ・複数の情報を関連付けて読むことが苦手である。
 - ・目的や条件に応じた文章(説明)を書くことが苦手である。
 - ・「問題を解く時間が足りない」と回答した児童の割合は前回より低くなっている。
 - ・無答率が以前より向上しているが、まだ高い。
- 《国語》
- ・主語・述語の理解が不十分である。
 - ・自分の考えを分かりやすく文章で書き表すことが苦手である。
- 《算数》
- ・問題解決の方法について、図や式をもとに論理的に説明することが苦手である。
 - ・図形、変化と関係の理解が不十分である。
- 《理科》
- ・差異点や共通点から問題を見出すことが苦手である。



【到達目標】

《めざす姿》 未来に夢を描き、時代をよりよく生きるたくましい子ども

《数値目標》

長期目標 ※R8学力調査

全国	平均比プラス、無回答5%以内
県	平均比プラス、無回答5%以内
市	平均比プラス、無回答5%以内
1・2年	本校学力調査:平均正答率75%

中期目標 ※2学期末学力調査(4月～12月までの算数の学習内容)

5.6年生	平均正答率65%、無答率10%以内
3.4年生	平均正答率70%、無答率10%以内
1.2年生	平均正答率70%、無答率10%以内

短期目標 ※毎学期末

国語・算数の学期末評価テスト平均正答率80%以上

【心の教育】

- 1 支持的風土のある学級づくり
 - ・互いに認め合う学級づくり
- 2 道徳・特別活動の充実
 - ・粘り強く取り組む心を育てる

《到達目標達成のための重点指導事項》

- 1 書く活動の充実
- 2 読解力の育成
- 3 確かな評価(振り返り・習熟)
- 4 基礎基本の定着

【生活指導】

- 1 共通実践事項の徹底
 - ・あいさつ ・廊下歩行 ・清潔 ・準備
- 2 いじめを許さない安心感のある環境づくり
(生活アンケート、個人面談の実施
児童の情報共有と個に応じた指導 等)

【分かる・できる授業の創造】

- 1 「書く活動」を重視する授業
 - ・主語や述語を明確にした文章を書かせる。
 - ・根拠を明確にした文章を書かせる。
 - ・条件に合った文章を書かせる。
 - ・複数の資料から読み取った考えを表現させる。
- 2 自力解決の場面・習熟の時間のある授業
- 3 「ねらい」と「まとめ」が子どもに届く授業
- 4 対話活動(ペア・グループ・全体)のある授業
- 5 ICTを活用した授業
- 6 T・Tと連携した個別・補充の指導

【校内研究】

- 1 授業研究
 - ・全体授業・学年授業
 - ・言語活動の充実
(主体的・対話的で深い学びの視点)
- 2 基礎基本の定着
 - ・スキルタイムの充実
 - ・既習内容の復習と活用問題
 - ・クラウド活用型ドリルの活用
 - ・家庭学習の充実と習慣化
 - ・全校学力調査(算数12月)
- 3 現職教育
 - ・学力向上研修

【各学年の課題と取組】

- 1年課題・基礎的な問題に対して時間がかかる。語彙力が少ない。
取組・書く時間を確保し、主述を意識した文章を書く時間を設ける。
- 2年課題・正しい文章表記や計算する力が身に付いていない。
取組・短文作りや短文読解、計算カード等を用いた計算練習に取り組む。
- 3年課題・正しい文章表記や漢字の力が身に付いておらず、時間がかかる。
取組・文章の視写を行う。日記を書く。
- 4年課題・漢字の習得が弱く、語彙力が少ない。
取組・漢字の習熟及びキュビナによる言葉の学習
- 5年課題・読解力が低い。基本的な計算力が低い。
取組・短文読解の練習及び基礎基本の計算
- 6年課題・国語では、読み取る力、算数では変化と関係の領域が弱い
取組・キュビナによる読解力問題を行い、授業でも書くことを意識した授業を行う。

【授業を支える取組】

- 1 読書活動の充実
 - ・朝の読書タイム(週1回)
 - ・読み聞かせ
 - ・図書ボランティア(よみよみの会)
 - ・ファミリー読書
- 2 学習規律の確立
 - ・学習用具のきまり
- 3 学校サポーターの活用
 - ・実技支援隊(家庭科・音楽)
 - ・ゲストティーチャー